

2016年
8月中国四国農政局
香川県拠点

News Letter

香川のブランド「オリーブ牛」 ～ 最優秀のオリーブ牛を生産 ～

香川県では、古くから牛が育てられてきました。讃岐牛の歴史は古く、明治15年頃全国に先駆けて小豆島で黒毛和牛の肥育が始まったのが最初とされています。

平成22年には、小豆島の肥育農家が、オリーブオイル搾取後の果実を飼料化することに成功し、「オリーブ牛」が誕生しました。その後、オリーブ牛は県内全域で生産されるようになり、現在は91戸の農家で育てられています。

さぬき市にある間島真司さんの牛舎では、130頭のオリーブ牛（黒毛和牛）と270頭の交雑牛が肥育されています。先代が始めた畜産業を引き継いだ間島さんは、平成22年からオリーブ牛の肥育を始め、良質な肉用牛の生産に向けて取り組んでいます。

「良質な肉牛を育てるためには、子牛の選定が重要」と話される間島さんは、子牛の繁殖農家が減少する中、北海道から九州まで全国各地に出向き、お気に入りの1頭を買い付けます。また、牛の体調を見ながら飼料の配合を変えたり、季節によってビタミンの量を調整するなど日々の管理に余念がありません。愛情を込めて育てたオリーブ牛は、本年7月に開催された「讃岐牛・オリーブ牛振興会枝肉共励会」で最優秀賞を受賞するなど、これまでに数々の賞に輝いてい



間島真司氏

ます。

間島さんは、「今後は、現状の規模を維持しながらオリーブ牛を増やし、より質の高い肉用牛を育てたい」と話されています。

オリーブ牛は、全国的な知名度も高まる中、平成24年からはアジアを皮切りに欧米への輸出を始めるなど販路も拡大してい



オリーブ牛となる子牛たち

ます。皆さんも、香川のブランド「オリーブ牛」を味わってみてはいかがでしょうか。



オリーブ飼料

オリーブ飼料は、出荷前に2か月以上、毎日100グラム以上が与えられます。

平成27年度食料自給率等を公表しました

農林水産省は、平成27年度食料自給率及び食料自給力指標を公表しました。

カロリーベース食料自給率は、魚介類の国内生産及び自給率の高い米の消費が減少する一方、小麦及びてん菜の国内生産が増加したことから、引き続き39%となりました。生産額ベース食料自給率は、野菜及び畜産物の国内生産額が増加したことから、前年度から2ポイント上昇し66%となりました。

直近10年間の食料自給率の動向

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
カロリーベース	39	40	41	40	39	39	39	39	39	39
生産額ベース	68	66	65	70	69	67	67	65	64	66

※ 食料自給率とは、国内の食料消費を、国内の農業生産でどの程度賄えるかを示す指標。

$$\text{食料自給率} = \frac{\text{国内生産}}{\text{国内消費仕向 (国内生産 + 輸入 - 輸出入在庫の増減)}}$$

詳しくは、農林水産省ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/ampo/160802.html>

農村振興局公式フェイスブックを開設しました

農林水産省では、FacebookやTwitterを通じた情報発信を行っていますが、今回新たな公式SNSとして、「農村振興局Facebook」を開設しました。

今後、農村振興に関連した施策の紹介に加え、全国各地の取組事例や各地域のイベント情報等、様々な情報を幅広く発信し、創意工夫を發揮した地域づくりに取り組まれる皆様の後押しをしていきたいと考えています。



「農村振興局Facebook」URL : <https://www.facebook.com/nouson.maff/>

香川県拠点メールマガジン「香川ぴっぴ通信」のご案内

香川県拠点では、県内の生産者、消費者及び関係団体等の皆様を対象としたメールマガジン「香川ぴっぴ通信」を発行しています。国の施策や農林水産業に関する話題など、スピーディにピピッとお届けします。

※ 毎月2回(原則1日、16日)配信

※ メールマガジンはどなたでも無料でご覧いただけます。

配信を希望される方は、香川県拠点ホームページから登録をお願いします。

「中国四国農政局香川」で検索

編集:中国四国農政局 香川県拠点

〒760-0018 高松市天神前 3-5

TEL (087)831-8151(内線221) FAX(087)833-7291 <農政局HP><http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆各種メールマガジンを配信中(登録はこちらから) <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>